

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 11月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	4271600522
法人名	社会福祉法人 秀峯会
事業所名	グループホーム きじの里
所在地	〒853-0311 長崎県五島市岐宿町二本楠375番地 (電話) 0959-83-1246

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年10月29日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造ストレート葺き平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 3,000円・他実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	180 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 780円		

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86歳	最低 56歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどりが丘クリニック・五島中央病院・山田歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームきじの里は福江島の中心地にあり、緑豊かな場所で自然を満喫できる。当ホームの自信は個別のケアや入居者のニーズに応えていく姿勢である。そのために管理者をはじめ職員は常に笑顔を決して、何か手を出すよりも話を聞く事を重要視されていることもあり、親しい関係を築かれている。その中で入居者の要望などを読みとり、入居者がその人らしく豊かに暮らせるように支援されている様子が伺えた。その甲斐もあってか地域の方々から当ホームの評判が浸透し、入居希望者が増えるほどである。また職員の入居者への言葉遣いや関わり方などの接遇は、法人の行き届いた指導により素晴らしいものである。そして更なる暮らしの質の向上にやる気を見せているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題に対する取り組みは、改善計画シートを作成されて取り組まれている。まず、現状に即したプランの見直しにおいては、半年に1度のプランの見直しから3ヶ月に1度に変更され、現状に即したプラン内容になっている。食事を楽しむ支援においては一人ひとりが食に対して楽しみをもてるように食器などを工夫された。災害対策は火災のみならず、いかなる災害が起こっても入居者の生命が維持できるように運営推進会議で地域の方の応援要請や、必要最小限の個人情報記録されている名札などを用意されるなどの取り組みがなされていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組まれており、グループホームに求められている内容を確認するとともに、評価の意義を理解され、取り組まれている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は概ね2~3ヶ月に1度開かれている。参加者は職員・入居者・入居者の家族・民生員・市民課長などが参加されており、行事報告や当ホームへの意見を尋ね、いただいた意見には柔軟に対応されるなどの取り組みがされている。市町村担当者とは運営推進会議のみならず、尋ねたいことがあれば普段から連絡を取るなどされている。今現在も質問をされており、市町村担当者が最良の回答を出されるように時間をかけて取り組まれている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月当ホーム独自の便りを発行されている。また入居者の写真を個々に同封され、ご家族に好評である。診察を受けた際には逐一連絡を入れており、入居者の家族の安心を得られるように努力されている。運営推進会議のみならず、玄関に意見箱を設置されるなど、入居者の家族からの要望を尋ねる姿勢を常にとられ、運営やケアプランなどに反映されている。また面会時には時間を見つけて話を伺うようにされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方々とは切れない関係を築くことを考えられ、入居者の状態を頼みながら学生のボランティアの受け入れを行っている。また園児やフラダンス会などの踊りを披露していただく場を提供されている。岐宿の文化祭では入居者の作品も出品され、作品を見に行くなど地元の方々とは交流を図られている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型をより意識するように理念を「住み慣れた地域の中で、ゆったり、のんびりとその人らしく豊かに過ごせるように支援します」と作り直され、取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に表示し、申し送り時には全員で唱和されている。また理念の実現に向け、「まごころで介助します・礼儀正しくします・積極的に行動します・仕事に責任を持ちます・お互いに信頼し協力します」と介護目標を掲げられており、日々精進されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々と切れない関係を築くことを考えられ、入居者の状態を窺いながら学生のボランティアの受け入れを行っている。また園児やフラダンス会などの踊りを披露していただく場を提供されている。岐宿の文化祭では入居者の作品も出品され、作品を見に行くなど地元の方々と交流を図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組まれており、グループホームに求められている内容を確認するとともに、評価の意義を理解され、取り組まれている。また、前回の外部評価を受けての課題に対する取り組みは、改善計画シートを作成されて取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2～3ヶ月に1度開かれている。参加者は職員・入居者・入居者の家族・民生員・市民課長などが参加されており、行事報告や当ホームへの意見を尋ね、いただいた意見には柔軟に対応されるなどの取り組みがされている。		さらに今後は運営推進会議の記録を検討され、質疑応答などいつ誰が見ても会議の流れがわかるように工夫されることに期待したい。

グループホーム きじの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議のみならず、尋ねたいことがあれば普段から連絡を取るなどされている。今現在も質問をされており、市町村担当者が最良の回答を出されるように時間をかけて取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月当ホーム独自の便りを発行されている。また入居者の写真を個々に同封され、ご家族に好評である。診察を受けた際には逐一連絡を入れており、入居者の家族の安心を得られるように努力されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のみならず、玄関に意見箱を設置されるなど、入居者の家族からの要望を尋ねる姿勢を常にとられ、運営やケアプランなどに反映されている。また、面会時には時間を見つけて話を伺うようにされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動が年に2回あるが、入居者へのダメージを考慮して、不安や寂しがられないよう工夫されている。また異動して来られた職員には先輩職員とのチームケアで入居者のダメージダウンを考慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が定める内部研修が毎月行われており、介護に必要な技術などを確認しながら学べる仕組みがある。その際は職員が講師となり、真剣に取り組まれているように見受けられた。外部研修も可能な限り参加できるように取り組まれており、中には復命書で資格を得られるよう支援もされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参加され、運営推進会議の議題についてや困難な事例があった時など、様々なことで相談ができる関係が築かれている。また、職員同士でも気軽に話し合う関係性が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望される方の自宅へ足を運ぶことや、同法人の他の事業所から、ホームに移行される方が見学・相談を通して、当ホームに自然と馴染んで行かれるように努められている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は人生の先輩ということもあり、昔ながらの風習や物を大切にすることを教えられながら、一方的な介護をすることなく、支え合いながら生活されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの希望などを入居者との会話の中で見出すように努められている。日誌にも記録されるなどで共有を図られている。</p>		<p>さらに今後は一人ひとりの生活歴をより深く知るために、日々の記録から大切な特徴やその方のサインを記録するなど、生活歴の記録を見直されることに期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の要望や家族の意見はもとより、かかりつけ医が入居者の健康を考え、減塩の食事を提供するようにとの指示も考慮されている。介護計画を作成された後、家族に同意のサインもいただいている。</p>		<p>さらに今後はケアプランのモニタリング、そしてその結果をより多方面から分析し、今回のケアプランによってどう変わったのかを前回と比較されながら記録されることに期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のモニタリングを行われており、3ヶ月に1度ケアプランを見直されている。また必要に応じてプランの見直しをされている。</p>		

グループホーム きじの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族交流会での食事や、当ホームのもつ介護知識を地域の方々に還元すべく介護教室を開かれるなどの支援をされている。認知症の方に対する接遇なども地域の方々に伝えられている。また理学療法士にリハビリのメニューを相談され、入居者の生活力の向上を目指されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の今までのかかりつけ医の希望は大切にされている。また、受診の際にはバイタル表を医師に提供されている。その後は必ず家族に報告されている。薬の手帳も利用し、変化があった場合は説明されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今現在までは看取りの経験はないが、看取りの指針と同意書を用意され、入居者や家族に十分な説明をされて同意を得ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的に書類や薬は事務所内で管理されている。接遇や言葉遣いに関しては法人代表者の意向で接遇委員会が発足され、徹底して指導されている。言葉遣いを特に丁寧にされていたように見受けられる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の得意とされていたことを活かしながら生活されている。例えば、暖簾作りが得意な方には数珠の木から実を採りに行き、出来上がった暖簾を文化祭に出品されている。また、その方が毎朝お参りしてお供え物上げる習慣があるのを考慮され、希望通りの生活ができるように支援されている。		

グループホーム きじの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方に調理の手伝いをして頂いたり、一緒に同じ食事をとることで共に楽しみながら食事できるように支援されている。また、入居者の状態に合わせてとろみ食や減塩食などの支援もされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能である。またお風呂が2ヶ所あり、男女のプライバシーにも配慮されている。入浴時間もできるだけ入居者の希望に添うように支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇や家庭菜園があり、季節に応じた花や野菜をすることで自分の役割を持ち、また季節感を楽しんでいただいている。他にも「ふるさと巡り」という支援があり、入居者の故郷へ出かけて懐かしい方々との再会を楽しんでいただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周りを散歩されたり、行きつけの美容室へ出かけたりと、日常的に戸外に出られるように支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に鍵をかけることはない。入り口には鈴がついており、玄関の出入りに配慮している。また自分が持ち場を離れる際には周りの職員に声かけをされるなど、さりげない見守りが心がけられている。また当ホームがある敷地には法人の他の事業所もあり、共に配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災のみならず、他の災害に対しても対応すべく検討されている。避難する際のマニュアルも用意されており、入居者の生命を守るべく、必要最小限の情報が書かれた写真入りの名札を用意されている。		

グループホーム きじの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士にメニューを見てもらい、確認されている。また食事量や水分量にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	段差のない畳の居間があり、そこに全員が座れる長こたつを用意され、冬にはみんなで仲良く囲らなできるよ うになっている。また、入居者が作られたすばらしい作 品や楽しそうな行事の写真が飾られており、居心地の よい空間を提供されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の家族の写真が飾られていたり、仏壇やテレビ、美しい花が飾られた花瓶などがあり、その人らしい居心地のよい居室となっている。		